

施策評価シート(対象:H28年度実施施策)

H29年度評価

施策名	循環型社会を目指した環境にやさしいまちづくり			総合計画コード	534
部名	都市建設部	主管課名	まちづくり推進課	主管課部課コード	050100
関連部課名	市民環境部(環境推進課)、都市建設部(道路整備課、下水道課)				

1. 施策概要

めざす目的成果	自然との共生や地球環境への負荷を軽減する観点から、全ての人や生き物にやさしく、環境面への配慮が行き届いたまちとなっている。				
施策概要	環境共生住宅や省エネルギー住宅などの整備の検討や、環境への負荷の少ない自然再生エネルギーの積極的な活用など循環型社会の構築に向けた検討を図る。また、健全な水循環の維持や再構築のため、500㎡を超える開発事業について雨水の浸透又は貯留施設の設置を指導し、また住宅の新築、建て替えにおいても浸透ますの設置を依頼し、雨水の流出抑制に努める。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市都市計画マスタープラン		計画期間	H 16 年度 ~ H 37 年度
					H 年度 ~ H 年度
					H 年度 ~ H 年度

2. 実施結果

H28年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ポンプ場の維持管理および修繕を実施した。 ・マンホール蓋の修繕および浸入水防止工事を実施した。 ・市役所に電気自動車充電器を設置し、利用者に無料開放を実施した。 ・アイドリングストップや温室ガスに対する排出抑制の啓発活動を実施した。 ・補助金の交付(雨水貯溜槽設置、住宅用太陽光発電システム設置)を実施した。 ・市有施設の屋根貸しによる太陽光発電事業を実施した。 					
H28年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	雨水災害対策に向け、関連施設の修繕やメンテナンスの実施、また安全・安心で環境に配慮したクリーンエネルギーの利用を実施した。				
	子育てがしやすいまち	自然環境と都市空間の調和を保ちながら、こどもの生育・成長に適した環境とサービスを提供した。				
	つながりのある元気なまち	環境教育・環境学習を介して、市、市民(市民団体)、事業者とがパートナーシップを構築することで、人と人とのネットワークとコミュニティを形成することができた。				
	自然・環境に恵まれたまち	自然環境の保全と循環型社会を継続するため、緑地の確保や河川の整備、また公共施設に太陽光発電や屋上緑化などの設置を行った。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度(見込)	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
		3,355	—	—	—	—

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績(見込)	実績(見込)	実績(見込)	実績(見込)	実績(見込)
① 雨水流出抑制施設設置割合 (説明) 開発事案件数に対する雨水流出抑制施設の設置割合	%	100	100	100	100	100
		100	—	—	—	—
② (説明)						
			—	—	—	—

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
	(説明) ・雨水抑制対策に向け、浸透トレンチや雨水貯留槽の設置し、また水路清掃を行うなど適切な管理を行った。 ・公共下水道の維持管理、修繕、新設を行った。 ・温暖化対策として、市が率先して市内公共施設において温室効果ガスの排出抑制を行った。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
	(説明) ・水路清掃は雨水排出先の確保のための基本的な管理事項であり必要性は高い。 ・市民の命と財産、安心と安全を守るため、雨水流出抑制対策の必要性は高い。 ・公共下水道の維持管理は、市民生活を営むうえで、環境面と衛生面の両方からとても重要である。 ・地球規模で取り組んでいる温暖化対策は、微力ながら時間をかけ継続して進める必要がある。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) ・水路への不法投棄が多いため、清掃だけに限らず、巡回や点検を日頃から実施する必要がある。 ・雨水流出抑制対策を進める際、開発行為に該当しない小規模な物件についても設置を促す必要がある。 ・公共下水道の老朽化が進んでいることから、耐震化や布設替え工事には事業の平準化を図る必要がある。 ・温暖化対策は個人のモラルに頼るところが多くあるため、個人に対する意識啓発を行う必要がある。

4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	[複数選択可] <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し					
	(説明) ・下水道の老朽化対策を計画的に進めるため、下水道ストックマネジメント基本計画の策定を行う。 ・下水道事業の公営企業会計への移行を進める。 ・雨水流出抑制対策については、あらゆる機会を通じて雨水貯留槽や浸透トレンチの設置を事業者等に促す。 ・循環型社会の構築を目指すため温暖化対策(太陽光発電設置費補助、電気自動車充電器無料利用、各種啓発活動)については引き続き継続する。					
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大					
	(説明) ・行政は循環型社会の構築と雨水流出抑制の必要性について啓発活動と購入費の助成を行う。市民は、普段の生活商品の購入の際、環境にやさしい商品の購入や雨水対策について、できる限りの対応を図る。					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H30に向けた 投入資源の方向性
		H27決算	H28決算見込			
	1 水路管理事業	3,375	3,355	5	5	現状のまま
	2 再生可能エネルギー普及推進事業	—	—	4	4	現状のまま
	3 都市計画総務事務事業	—	—	4	4	現状のまま
	4 地球温暖化対策推進事業	—	—	4	4	現状のまま
	5 下水道維持管理事業	—	—	5	5	現状のまま
	計 (単位:千円)	3,375	3,355	—	—	—
	<input type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載					
審議会等の第三者機関の評価(意見)	第三者機関の意見なし					
部長の意見	環境問題は、世界規模のものから身近なものまで様々なものがあるが、特に雨水の循環については、市内で浸水被害が生じていることから、下水道の整備等の基盤整備と並行して、市民や事業者の協力による雨水流出抑制対策を促進していく必要がある。また、良好な住環境の維持のため、汚水を適切に処理する必要がある。このため、下水道整備や老朽化対策を計画的に進めるとともに、市民、事業者への雨水流出抑制対策に関する啓発を行う。また、低炭素社会の構築に向けて、再生可能エネルギーの利用推進やアイドリングストップ等について、市民、事業者への啓発を行う。					